

第2回 高梁市行政改革推進委員会 会 議 次 第

日時：平成29年8月4日（金）

13:30～15:10

場所：高梁市役所 3階大会議室

1.開 会

進行：蛭田課長

2.あいさつ

中村委員長) 第2回の行革推進委員ということで、大変お忙しい中、また暑い中お集まりいただきありがとうございます。前回の委員会で高梁市が取り組んでいる行政改革の大まかな流れ、大変難しい重要テーマで自分たちが何を言ったらいいのか緊張していたと思う。気を楽にさせていただいて、前回のよ
うな意見を言っていたきたい。我々の意見は今後の計画に取り入れられていると聞いているので、今日は具体的な計画について説明がでると思う。皆様方の各団体での一般市民としての目線で結構ですので、忌憚のない意見を
いただきたいと思っています。我々の役目は役所の方々が行おうとしていることについて、一般市民の意見を取り入れるべきだということで認識している。気を楽にさせていただきご意見いただければと思っているので、よろしく
お願いします。簡単ですが、挨拶とさせていただきます。

3.第1回行政改革推進委員会議事録の公開について

【事務局説明】

4.議 事

① 「高梁市行財政改革プラン（素案）」について

〔事務局説明〕

中村委員長）プランについての説明をいただいたが、委員の皆様からご意見がある方は発言をお願いします。

植木委員）非常に内容の濃い素案であった。合併してから、各自治体として運用していたので、重複するような公共施設は当然あった。そのようなもの見直しは必要な部分 unnecessaryな部分について説明をしっかりと進めていってもらわないといけないと思っている。

それと一点 p.6 について事務事業の中で出たマネジメントサイクルPDCA、使い古された言葉だが、このサイクルが素案にもあるが、末端の職員まで事務事業評価をする意義について、伝わらないといけない。徹底してしっかり取り入れていくことが意識改革に繋がっていくのではないか。

特にマネジメントを行う管理職も末端職員への意識付けの重要性について理解したうえで、徹底して指導を行わないといけない。

新たに見直しをされた現代版のマネジメントサイクルも出てきている。

何にしても、受益と負担というのは、行政組織においては最後まで関わっていかないといけないものであるため、徹底してほしい。

事務局）平成23年から高梁市としても事業の評価をしようということで事務事業評価制度を導入している。それぞれの事業の目標がどうなのか、指針である新総合計画の中にある指標をどう向上させていくのか、各担当課が毎年事業の評価を行っている。

しかし、評価によって「もっといいやり方がある」、「見直してこういう成果が出た」など見直しまでには、繋がっていない。植木委員がおっしゃるとおり、事務事業を執行する末端職員の改善しようとする意識を高めて、よりよい事務事業の評価のシステムを構築していかなければならないと感じている。

植木委員）平成19年のまちづくり連絡会だと思うが、各地域の事業評価ということで、事務局が提案されたと思うが、各地域のまちづくり協議会の事業

について、第三者の立場から口出しをしてほしくない、5つのまち協から強い意見がでて、今の事業評価には繋がらなかったと思う。委員の選任までできていたが、こういう意見はおかしいと言われるかもしれないが、行財政改革を取り込む姿勢として絶対やらないといけないと思う。評価の中で経過として各まち協から意見を言われるのはいいと思うが、反発があったから取り下げるとするのは、まだまだ取り組む側の姿勢としてどうかと思う。そのあたりはしっかり進めていただきたい。

川上委員) p. 11 イベントの補助について、これ自体が悪いということではなく、例えば夜のイベント（松山踊り、花火など）、職員が手伝う場合、超過手当を支給するというのは、ボランティアをやっている人から見ると、不満がある。そのあたりはどうなのか。

事務局) ご不満の声は聞いている。イベントへの職員の動員について、休日の日中の勤務はすべて振替ということで平日に休んでもらい、基本的に超勤対応しないということにしている。しかしながら、8：30よりも前、17：15より以降に働いた分については、労働者の権利として超勤手当を支給している。

いろいろな団体から市役所に職員を動員してほしいという要請、要望があったということで出さざるをえないという認識でいる。そのあたりをどうするかということも課題になってくると思うが、行革の面から超勤手当を動員職員へ支給しないとすることは難しい。労働基準法の絡みもあり、総務課で「勤務」として取り扱っている職員については超勤手当を支給している。市民の方からは、イベントへの従事に対する超勤手当支給について適切なのか、という意見を聞いている。難しい問題ではあるが、将来に向けて考えていきたい。

中村委員長) マイナンバーで色々な情報が結びついているわけで、それを活用したり効率化を図ったり、あるいはITも進歩しているわけであるから、もちろん色々取り組まれているとは思いますが、業務の中で効率化の図れるものがあるのではないかと思う。昔は手作業でしていたものが、今はパソコンです

ぐに作業ができるようになり、手がかからないようになってきたし、市役所に出す書類でも手間のかかる場合もあるため、もっと効率化の図れるところがまだまだあると思うので、今後も取り組んでもらえたらと思う。

事務局) この行革の項目の中に民間活力の活用と明記しており、職員が対応すべき業務と民間でも委託できる業務と分け、コスト削減ができる業務を積極的に拾い出し、取り組んでいこうという方針を出している。

藤井委員) p. 11 にある働き方改革の推進で男性職員の育休をとりやすいような職場環境を醸成するとなっているが、実際取得状況はどうか。

事務局) 残念ながら実績には繋がっていない。

藤井委員) 前回の時少し話したが、ご説明を聞いて私は民間の人間で、こういう話は大変格調高い話で受け入れがたい、飲み込みにくい、理解できない、難しいと感じた。この働き方改革の中で男性職員の育児休業取得について、婦人会が取り組む男女共同参画社会推進事業と共通している。男性とか子供とか若者とかが家庭や地域へ貢献する取り組みが必要なんじゃないか。家庭のことは女性がメインでやってきたという風潮がある。それを皆で誰でもできるような社会にするということに取り組んでいる。

市の職員さんの育児休業について、期間はどれだけなのか。

事務局) 育児休業は最大3年である。

藤井委員) 男性が育児となると大変だと思う。イクメンやイクジイ等、育児の方法は変わってきている。そういう風な取り組みをやっていきたいと思っている。今の説明を聞いて、この方向でやっていくのなら、これから一体となって支援させていただけるのではないかと感じた。我々の活動についても活用していただけたらと思う。

事務局) 共働きの時代、男性の方でも育児休業をとりやすい環境を自治体が手

本となって、積極的にとれるような環境を整備していけば、社会全体が男女共同参画社会に近づいていくと思う。

藤井委員) どんな環境の整備を考えているのか。

事務局) 職場での育児休業取得者への理解や配慮が得られなければ、当然取得希望者は取得をためらうことから、職場全体が育児休業制度について理解すること、また、職場に子育て中の男性職員がいるのかを把握することで、徐々に職場全体の意識を向上させ、男性職員でも取得しやすい環境を整備していきたいと思っている。

川上委員) 様々な事業を見直すにあたり、こういう成果だったらいい、こういうのはダメというのは内部で決めるのか、あるいは第三者委員会で決めるのか、そのあたりはどのように決めるのか。補助事業については、内部で決めるのであると思うが、見直した内容については、市役所内部で来年度の予算に反映するという立ち位置になるのか。

また、プランの中にある「ネーミングライツ」、「クラウドファンディング」等の言葉について、非常に分かりにくいので、説明を最後に載せる注釈をつけるべきでは。

事務局) 基本的には、内部の推進本部会議で行う。一時期、第三者委員会の方で事業仕分けをしていた。ただ、当時の意見として第三者委員会の意見の取り扱いについて、拘束力がないなどデメリットがあるため、行政経営アドバイザーとして坂口先生から色々な面で参画してもらっており、その方を中心に評価をしてもらっている状況である。

用語解説の標記については、改善を行う。

川上委員) 高梁市でネーミングライツをして収入を稼げるのか。例えば、神原のスタジアムに名前をつけてやろうという企業はあるのか。他がやっているからできるという思いがあったのではないか。

事務局) 全体での行革プランであり、まだ素案であるため、皆様の意見を取り入れて実施プランを作っていきたいと思っている。

植木委員) 業務改善提案というのは、民間では義務付けられているような形で進められていると思う。外部から見ても役所の仕事について改善点はあると感じられる。職員自体も感じているとは思いますが、業務改善までに至っていないように感じる。

人事考課するのに特に公務員の場合は、短期的な評価をするなど言われているが、よく意味が分からない。短期的な評価をしてこそ、改善につながるが出てくると思っている。改善提案が功を奏したら評価するのが当然。

インセンティブがゼロだったら真剣にならない。評価によって給与を上げろとか、そういうことではなく、何かのインセンティブがないと改善ということに繋がらないと思う。とくに行政コストに関しては、内部で事務事業に携わっているような人じゃないと分からないようなこともあるし、コストをかけた色々な政策について行政コストと効果のバランスのことを考えると、短期的な評価はどうしても必要なんじゃないかと思う。アウトソーシングについても、職員がしなくても外部委託ができる方法が考えられるような場面は結構あると思うので、積極的に改善が評価につながるような方法を考えて進めていってほしい。

事務局) 国がそういった指導をしており、人事考課というのは一昨年度までは、高梁市では試行ということで行っていた。今はそれが義務付けになっている。

全職員を対象に年度始めに目標を立てさせ、所属長とヒアリングをし、目標数値をもって取り組んでいく。その評価について、最終的に給与に反映させるようにとの国からの通達があったが、そこまではできていない。

今年度からは市長が組織目標を出すよう、各所属について目標を立てさせ、市長から追加指示が出て見直しをし、目標値を立てていくという取り組みをしている。

石井委員) 前回の委員会の報道があり、「テレビを見たよ」と知り合いから言われた。知り合いから委員会で聞いてほしいと言われていることがあるため、

それを踏まえてお聞きしたい。限られた予算の中で使うべきところ減らすべきところがあると思うが、何がきっかけで高梁に住みたいと思うかは個人で違うと思う。どこの企業かは分からないが、ラッピングカーで吹屋ふるさと村や松山城や雲海等が印刷された車を走らせていると聞いた。広告媒体が車であれば広範囲で高梁市をPRできる。それを見た人が行ってみようと思ったり、そこで住んでみようと思う方もいると思う。こういったPR活動に助成は出るのか。

津野邊委員) 津野辺運輸のトラックで行っている。最初は去年の3月に会社で費用を負担し行った。好評だったので、現在6社で実施し、市へお願いして補助金を出してもらっている。

事務局) 具体的にいくらかは今分からないが、補助は出している。

石井委員) 人口が減少し、これからも見込まれる中、市役所の職員の中で市外から通勤されている人は何割程度なのか。私は生まれも育ちも高梁なので、地元が好きで、市外へ出られるというのはなぜなのか知りたい。

また、ゆららの維持費はまだかかっているのか。

事務局) ゆららについては、セコムの電気代や草刈り等にかかる経費など最低限の維持費はかかっている。市外に住む職員については、移住、定住の施策を進めるのであるならまず職員の定住が先だろうという厳しい意見をいただいている。市外からの通勤者は、今100人ほどいると思う。議会でも質問もいただいているが、法で住居の自由が定められているため制限をすることは難しい。先月も伯備線で落石事故により電車が運休した例もあるように、職員については、非常時に自力で職場へ来られるような想定をしておくことが重要である。住むのが1番であるが、業務に支障が出ないよう代替通勤手段の確保に各自努めているところである。

石井委員) なぜ市外へ出るのか。市内居住についてマイナス要因があるなら、それを改善していけばプラスになるのではないのか。

植木委員) 有漢の定住対策についてまちづくり協議会で行っている。町外へ出られる方から意見をもらったことがある。転出の一番大きい理由は子育て、教育、医療環境の良いところへ行きたいということであった。

石井委員) 高梁市には産科がないため、産科ができるくらいの人口が増えたらなという希望もある。

事務局) 高梁で子育てを行うのであれば、産科が必要だという意見もいただいている。

しかし、医師や看護師がなかなか確保できず、市内に産科がないという今状況となっている。なるべく、産前産後の安心を確保するため、子育てに関しての各種の施策で対応しているところであるが、産科がないことにより、直ちに人口の市外流出の原因となっているか、判断できない。

色々な課題を抱えているのが高梁であり、今まで定住対策や結婚・子育て支援などさまざまな施策をどんどん広げていった。現在、貯金である基金を崩しながらこれらの施策を実施しているところだが、この状況があと何年も続くとは限らない。

すべての施策をやめるわけにはいかないが、効果的なやり方を市も各種団体の皆様も考えていかないといけない。

そうしたことで市民サービス水準をできるだけ低下させないように、全体を圧縮するといった方法をやっていきましょう、というのがこの行革の趣旨であるため、よろしくご協力の程お願いしたい。

② 今後のスケジュールについて

【事務局説明】

③ その他

【事務局説明】

5.閉 会

島副委員長) お忙しいなかお集まりいただきありがとうございました。素案ということで、取組み方や理念を書いたような感じで、具体的な数値、目標がないので、なかなか議論しづらいとは思いますが、もう1回委員会があるので、いろんな意見を頂けたらと思う。長時間にわたりお疲れ様でした。ありがとうございました。